

開催地名	埼玉県 飯能市
開催日時	令和7年1月23日(木)14:00~15:30
開催場所	飯能市役所
語り部	平澤 つぎ子(千葉県旭市)
参加者	飯能市役所 58名
開催経緯	大規模災害経験のない市職員を対象として、災害体験についての話及び女性の視点での避難所運営について学ぶ機会とした。 職員の防災意識の醸成と災害対応力の向上に役立てたい。
内容	<p>■災害の種類と特徴 講演の冒頭では、災害の種類とその特徴についての説明があった。土砂災害(山つなみ)には、土石流、地すべり、がけ崩れなどが含まれ、これらの前兆をつかむためには視覚、聴覚、嗅覚などの感覚を活用することが重要である。ただし、その前提として防災に関する知識が必要であり、日頃からの学習や訓練が欠かせないとされた。 風水害については、台風の進路予想により「いつ」「何が」発生するかをある程度把握できるため、事前の備えがしやすいという特徴がある。一方、地震は予測が難しく、発生時には室内がまるで「モンスターが暴れている」かのような状況になると例えられた。特に地震では圧死の危険性が高く、家具の固定ができない場合には圧死を防ぐための工夫や避難経路の確保が重要であることが示された。これに関連して、家具固定の有無によるシミュレーション動画が紹介された。さらに、大地震発生後には津波や火災が続いて発生することが多く、その具体例として能登半島地震の珠洲市の事例が紹介された。 また、南海トラフ地震や日向灘地震に関する臨時情報は、調査が終了していることが説明され、日常生活の中での備えの重要性が強調された。</p> <p>■平時の防災対策 防災において「自助」「共助」「公助」のどれが最も大切かという問いが投げかけられ、市職員は公助に貢献する立場であるが、平時から個々が防災力を身につけることが重要であると説かれた。生きているうちに防災力を高め、日頃から備えをしておくことが、いざという時に生存率を高める鍵となるとされた。</p> <p>■避難所運営と女性の視点 平澤先生が実際に体験した東日本大震災時の千葉県旭市の事例が紹介された。旭市では、津波被害、がけ崩れ、液状化現象が発生し、行政無線の呼びかけにより約3,000人が避難所に身を寄せることとなった。停電の中、投光器の光を頼りに避難所内でおにぎり作りが行われ、7俵分の米が炊き出しに使用されたという実体験が語られた。</p> <p>■避難所でのトラブルとその対応 避難所では、様々な問題が発生した。着替える場所がなくプライバシーが確保できない、子供の泣き声が気になる、食べられないものがある、他人のいびきがストレスになる、トイレを控えるために水分摂取を避ける人が多いなどの課題が浮き彫りとなった。また、要支援者のための福祉避難所の設置には、住民一体となった訓練と多角的な視点が必要であることが説明された。旭市の事例では、避難所運営において3交代制が導入され、1か所につき6人の当番体制が組まれていたことが紹介された。</p> <p>■女性の視点が活かされる支援活動 要支援者には異なるハンディキャップや障害を持つ人々が含まれており、それぞれに応じた適切な支援が求められる。特に女性の視点が重要となるのは、衛生面、栄養面、介護面、育児面での支援であり、これらの配慮は平時の訓練を通じて育まれることが強調された。</p> <p>■災害協定の活用事例 災害時には地域の協力が不可欠であり、その一例として、学校給食センターとの協定に基づき、お盆や食器などを避難所で使用することができた事例が紹介された。また、避難所の主な</p>

活動として、食事の提供や保健衛生の管理、心のケアに加え、避難者から寄せられる多様な依頼にどのように対応したかについても実体験を交えて語られた。

避難所では、柔軟性や想像力が不足していると対応が後手に回ることがあり、気づきや先見の明を持つことが重要であるとされた。さらに、避難者への声かけの大切さや、リーダーシップの発揮、自発性や協力性の向上、臨機応変な対応が求められることが強調された。また、日頃からの地域のつながりが、いざという時の助け合いにつながることも指摘された。

■過去の災害からの学び

災害対応の歴史的な教訓として、関東大震災の際に行われたバケツリレーや、阪神・淡路大震災時の共助の重要性が紹介された。これらの事例をもとに、地域の防災意識を高め、日常生活の中で実践できる取り組みを積み重ねることが、将来の災害時に役立つことが改めて強調された。

本講演を通じて、防災には女性の視点が欠かせないことが明らかとなった。特に、避難所運営においては、衛生面や育児、介護に関する対応が求められ、日頃の訓練を通じて支援体制を整えることが重要である。参加者には、今日学んだ内容を日常の防災活動に活かし、地域全体の防災力向上に貢献することが期待される。



開催地より

日頃から、地域で活動されている方による避難所等での経験談をお聞きすることができて、今後の執務の大きな参考となった。